

2014年10月24日（金） 13:30~17:00

## 秩父森林研修・講演会

### 「植物野外観察会－標本をつくって植物名をたくさん覚えよう」

@東京学芸大学附属特別支援学校成美荘（観察）、東久留米市成美教育文化会館（作業）

講師：犀川政稔先生（東京学芸大学名誉教授）

#### 研修の流れ

集合、事前説明(基本的な用語の説明等)

雑木林での解説、観察、標本作成のための採集

標本作成

#### 押し葉標本作成法

##### 1、葉の採集

※A4サイズで作成するので、剪定ばさみで大きめにとる。

##### 2、新聞紙をもとの大きさの4分の1サイズに切る

##### 3、2の紙を半分に折り（=A4サイズ）、間に標本にしたいものをはさむ

##### 4、3を繰り返し標本にしたい葉をすべて新聞にはさむ

##### 5、新聞紙をもとの大きさの半分の大きさに切る

##### 6、5の紙を2回折りA4サイズにする（吸水用）

##### 7、A4サイズの板の上に、4と6を交互に重ねていく

※このとき、折ってある部分が、4は全てそろえ、6は4と逆向きにそろえる。

こうすることで、端を見るだけで、植物をはさんだ紙なのか、吸水紙なのかがすぐにわかる。

##### 8、すべて重ねたら、一番上に板をおく

##### 9、板ではさまれたものを、ロープできつくしばる

##### 10、自宅に戻ったら重しをのせて吸水させる

##### 11、吸水紙は毎日とりかえ、2週間ほどで水分が抜ければ完成

※吸水紙をこまめに交換しないとカビてしまうので注意

※詳しくは以下を参照

[http://ir.u-gakugei.ac.jp/bitstream/2309/134196/1/18804330\\_65\\_08.pdf](http://ir.u-gakugei.ac.jp/bitstream/2309/134196/1/18804330_65_08.pdf)

## メモ(先生のお話から)

### ●森の歴史

この雑木林は、昔は薪炭林として使われていた。

しかし、やがて使われなくなり放棄された。

今は学芸大学の所有。

しかし、将来的にはここをつぶして開発される危険性もあり。

### ●遷移について

このままだと遷移が進む可能性がある。

シラカシやアラカシなども生えているが、トウネズミモチの森林になる可能性がある。

トウネズミモチは、海外から持ち込まれた。

当時の図鑑では1~2mと記載されていたが、やがて5m、10mと時代が進むごとに大きく記載されるようになり、20mと書かれるものもある。

これからどうしていくのかについては様々な意見があるが、仮にトウネズミモチの森林に遷移していったとしても「自然とはそういうものだ」と思って受け入れるのかもしれない。

## 観察した樹木

アジサイ

サワラ、ヒノキに比べて材が詰まっていない、桶などに使われた

ヒノキ

トベラ、海岸の植物

サネカズラ、ビナンカズラともいう、つる性、まばらに鋸歯、赤い実が成る、

ヌルデ

アカマツ

クスノキ

ニワトコ、奇数羽状複葉

エノキ

サンショウ、一箇所からトゲがペアで出ている、イヌザンショウはトゲがペアで出ない

ヤブツバキ

ヒサカキ

アオギリ

イロハモミジ

ムクゲ、韓国の国の木

クチナシ、対生、

ナンテン

モッコク

アオキ、もともと日本産だがヨーロッパですごく繁殖している

ハゼノキ

チャ、ツバキの花に似た花をこの時期につける

ヤマコウバシ、葉をとってもむと良い香り、

イヌシデ

カクレミノ

イイギリ、赤い実が垂れ下がる、ナンテンのような実が成るのでナンテンギリともいう

クロ

コウゾ、和紙をつくるのに使われる、ツンベルクは江戸時代に「日本で一番大切な木」と言った、クリーンベンチのフィルターにも使われる

トウネズミモチ、日にかざすと主脈と側脈がはっきり見える、在来種のネズミモチは透けない、一緒に生えていることがあり雑種をつくっている、危険な在来種の筆頭に挙げられる、鳥が実を食べてどんどん増える

キヅタ、ツタよりも葉が小さい

ツタ、吸盤で張り付いている

ミズキ、クマノミズキに似るがミズキは互生でクマノミズキは対生

ムクノキ

キョウチクトウ

シュロ、江戸時代から生えていた、

クサギ

コブシ、実が人間の握り拳に似る

コナラ、フィリピンにいくとカリンがあるがこれを現地では「ナラー」といい良質の家具がつくられる。これが語源なのではないか？